

態度数量化の一方法Ⅲ 補遺

—POSA・MSA と数量化の方法—

林 知己夫・林 文

(1973年10月 受付)

One Method of Quantification of Attitude III Supplement

—MSA・POSA and theory of quantification—

Chikio Hayashi and Fumi Hayashi

The re-analysis of the data presented in the previous paper (Proc. Inst. Statist. Math, Vol. 20, No.2, 1973) is given. The more clear-cut result is shown.

The Institute of Statistical Mathematics

§1. はじめに

前回の論文(同名, 彙報 第20巻 第2号 1973)の§3で示した5問による解析において, 姦通に関する問題の取扱いが不十分と思われたので, 再分析を行うことにした. 前回論文71頁終りから10行目「また姦通の……が注目される」という解釈は不適当と思われるので削除する. 回答パタンの布置(誤植で図表パタンの布置となっている)をよくみると, 姦通(1)とキセル(2)の位置が近くに出ているのである. 他質問との組み合わせをみても近くにある. これは, 1と2とが似ていると解釈する方がより妥当であると思われる. そこで, 似ているとして, 曖昧な意味をもつ姦通をぬかして分析を進めてみた.

§2 分析の結果

第4図に相当するのが第4'図である. 第4図で1(姦通)をぬかしてみれば同じ図柄が得られている. 第5図回答パタンの布置の代りに第5'図が得られる. ここの表現は左から1問,

○ 嚴罰的傾向

● それ以外

$\eta_1^2 = 0.2971$

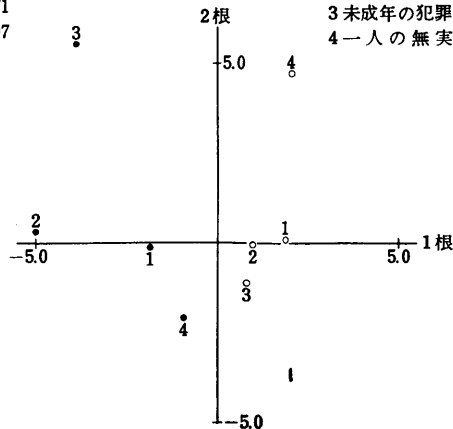
$\eta_2^2 = 0.2497$

1 キセル

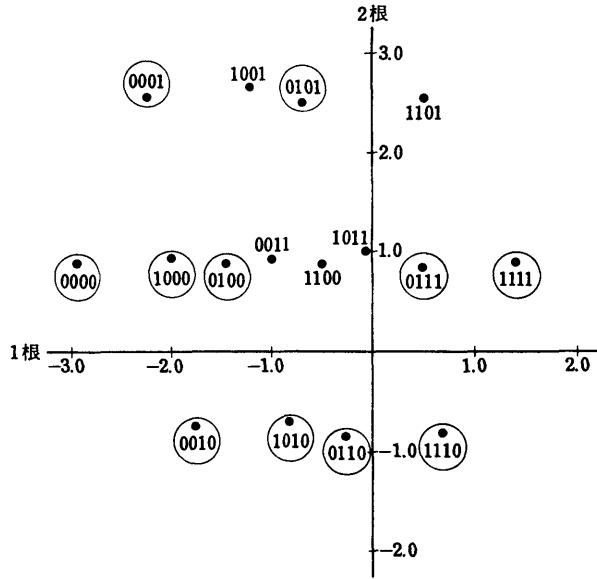
2 死刑

3 未成年の犯罪

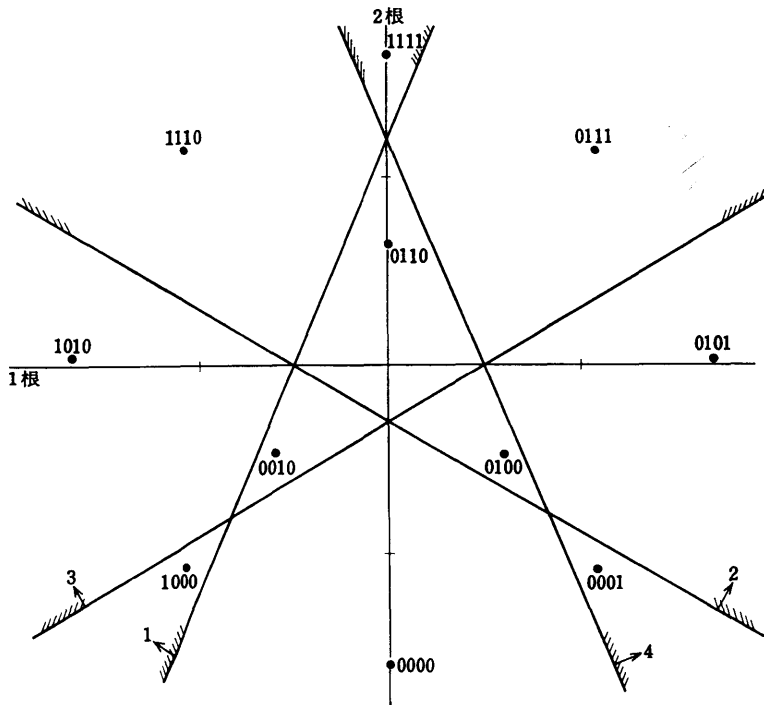
4 一人の無実



第4'図

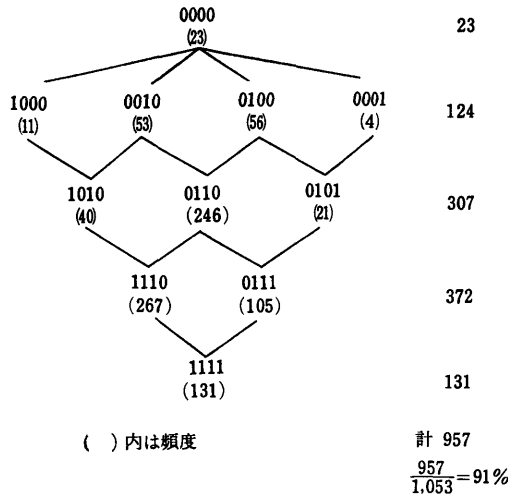


第5'図 回答パタンの布置 ○印を採用する



第8'図

2問, 3問, 4問をあわわす。1は厳罰的傾向の回答, 0はそれ以外を示している。このうちでとりあげたパタンのみを用いて回答パタンの頻度をすべて1としてパタン分類の数量化を用いてみると第8'図の様なすっきりした図が得られる。図中の直線は回答パタンの領域の2次元のすっきりした分割を示している。しかし、これを見ると直線は互に交わり、1次元をなす質問は存在しないことになる。さて、これから図柄をきちんと整理してみたのが、第6'図である。再現率は $957/1053=91\%$ と高い。姦通を除外した議論が全く同じに行われうる。



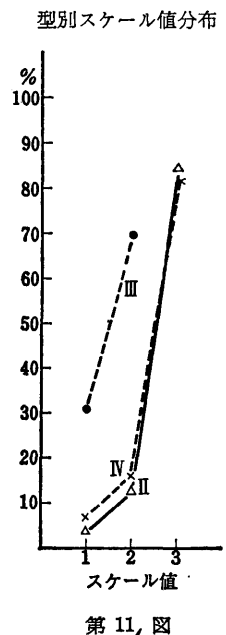
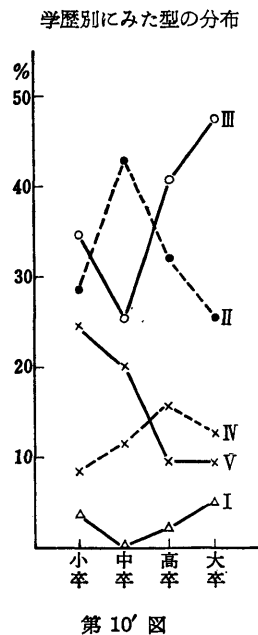
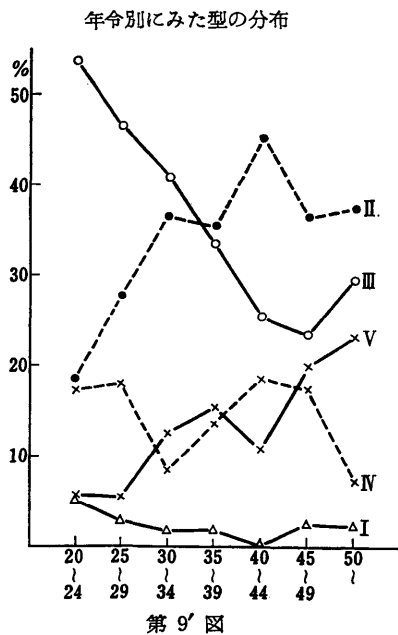
第 6' 図

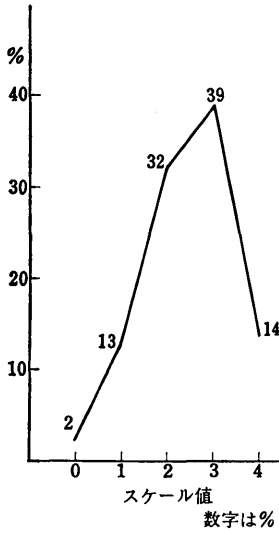
キセル——キセル・未成年——キセル・未成年・死刑
という II 型

一人の無実——一人の無実・死刑——一人の無実・死刑・未成年
という IV 型

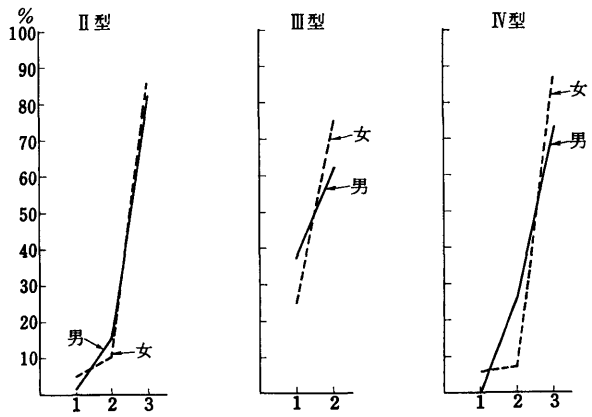
I 型は全部非懲罰的, V 型は全部懲罰的, III 型は中間ということになる. II 型, IV 型が全く逆な方から懲罰にして行く姿を示していて非常に興味深い(前論文の II, IV 型では姦通がきれいな逆傾向を乱していた). 姦通はこの場合どう考えるかと言えば, キセルと同じものと見做して行くのがよからうと思う. この点が前論文と全く異なったものになるが, このところは本論文の方が妥当であると思う.

さてこの型を用いて前論文 §4 の分析を行ってみた. 全体で型に対する分布は I 型 2.4%, II 型 33.2%, III 型 37.1%, IV 型 13.6%, V 型 13.7% である. 姦通を除外すれば全く同様に議論できる. 第 9 図は第 9' 図となるが全く同傾向である. 第 10 図は第 10' 図, 第 11 図は第

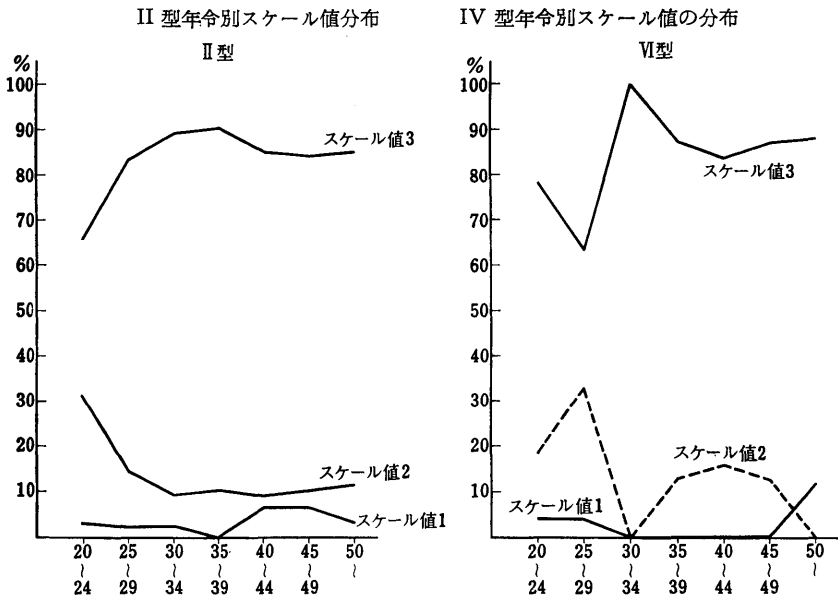




第12' 図 スケール値分布



第13' 図 性別スケール値の分布



第14' 図

11' 図となる。第11' 図でII型IV型の分布は第11 図と全く同一であるが、III型については、スケール値の関係で形が少し異ってみられる。

第12 図は第12' 図となるが全く同一のおもむきである。第13 図は第13' 図となるが前と同様の傾向である。第14 図は第14' のなるが大局的には異った傾向ではない。

統計数理研究所

訂正 前論文第3図で12と123とが点線で、また13, 23と234, 134とが線で結ぶべきであるが脱落している。